

## ナイジェリア：イスラム教徒の攻撃を傍観する弱い政府

ローマ、2012年4月30日 (ZENIT.org)

ナイジェリアの司教協議会の議長、イグナチウス・カイガマ大司教と Abuja の大司教ジョン・オナイエケン は日を追って増加するイスラム教徒の暴力に対して政府がほとんど何もしないと非難した。

また、4月29日(昨日の日曜日) カノのバイエロ大学のキャンパスの日曜礼拝とナイジェリアのキリスト教会に属するマイドゥルグリの礼拝堂で、同時に起こったテロによって、21人が死亡し20人以上が負傷したと話した。この事件は日曜の礼拝中に信者を狙った一連の事件の最後のものだが、状況が悪化していることは、バイエロ大学の礼拝堂にいた信者が外に逃げようとしたときイスラム教徒によって銃で撃たれたことを見ても明らかである。この事件の犯行声明は出されていない。

「貧しい教会への援助」団体とのインタビューで、二人の大司教はボコ・ハラム(イスラム過激派グループ)と他の民兵組織による暴行に対して何ら効果的な手を打たない政府の無策に対して、堪忍袋の緒が切れたと言う。ジョン・オナイエケン大司教は「最初、政府がこのイスラムのテロは新しい形のものだと言っていたとき、私たちは政府の対策を忍耐強く待とうとしていました。しかし、もう十分時間が経ち、政府が有効な手を打つことができない弱い政府であることが明らかになりました。」大司教によれば、政府内部に分裂があり、それゆえ毅然とした行動が取れないのだ。

他方、カイガマ大司教は、「時を追ってひどくなる暴力は、政府の治安組織が機能しないことを表している。政府には治安維持の能力がなく、我々は無防備状態の不安の中で生活している。政府はどのようにして犯人を見つけ得ないのか、理解に苦しむ。私は国に税金を納めているのだから、この事件の真相をしる権利があるだろう」

カイガマ大司教の司教区は国の北部にある Jos で、それはイスラム教徒の暴力の被害が最もひどい地方である。「大学で殺害された学生たちは、我が国の希望でした。これは社会に対する挑戦です。彼らはよりよい国を建設しようとしていた人々だったので」

ボコ・ハラムというイスラム過激派集団は、これらのテロ行為の多くに関わったと声明を出している。教会以外にも政府や警察や市場の建物も狙ったテロで、今年になってからすでに少なくとも450人を殺害している。

そのテロの最悪のものの一つが、昨年クリスマスに、首都の郊外にある Madalla のカトリックの聖テレジア教会で起こった自爆テロで44人が死亡、80人以上が負傷した。

先月、ボコ・ハラムの広報官は「キリスト教徒に対する戦争」を布告し、全国からキリスト教徒を根絶やしにすると宣言した。

【以上、Zenit の記事。次は、<http://www.christiantoday.co.jp/article/4464.html>】

ナイジェリアのキリスト教徒の地域で爆破事件、1人死亡・9人負傷(2012年4月26日)



ナイジェリア中東部プラトー州の州都ジョスで24日、サッカー観戦のためキリスト教徒たちが集まっていたセンターで爆発が起こり、少なくとも1人が死亡、9人が負傷した。翌25日、コンパス・ダイレクト・ニュースが伝えた。爆発は24日午後10時15分頃、キリスト教徒が多く暮らす地域のサッカー観戦のための施設であるビューイングセンターで発生。目撃者は、犯人がサッカーを観ていた何百人ものキリスト教徒に対して爆発物を投げ付けたとコンパスに伝えた。爆発から約10分後、負傷者たちは数メートル先の病院へ搬送され、医療関係者は警察と警備員の厳重な監督の下で治療を施した。伝えられるところによると、プラトー州の報道担当者は爆風によって1人が死亡したと語った。

事件の後、軍部と警察はプラトー州の治安を維持するため、ビューイングセンターの周囲に非常線を張った。当局は事件の容疑者として、イスラム過激派ボコ・ハラムのメンバーをリストに上げている。キリスト教徒が多く暮らす地域が攻撃されたのはこの2週間で2回目。ボコ・ハラムは復活祭の日に5人のキリスト教徒を負傷させた爆破事件でも疑いを掛けられている。同事件はビューイングセンターから数メートル先で起こった。

ジョスではキリスト教徒とイスラム教徒双方のコミュニティが隣接しており、宗教間の緊張が高まりやすいためか、爆破事件が頻発している。同地域には8つのキリスト教会がある。容疑を掛けられているイスラム過激派は昨年12月、ジョスのキリスト教徒が多く暮らす地域の3カ所のビューイングセンターを爆破した。この事件では1人が死亡、少なくとも10人が負傷し、うち4人は重傷、2人は昏睡状態に陥った。

ナイジェリアの総人口約1億5,820万人のうちキリスト教徒は51.3パーセント、イスラム教徒は45パーセントをそれぞれ占めるとされているが、土着の宗教を信仰する人々も10パーセントはいると言われているため、実際の割合は少し下がるとみられる。